

令和2年6月26日
東京都歴史文化財団事務局
佐々木秀彦

都立美術館・博物館における新型コロナへの取組（私見メモ）

【管理運営する施設】

東京都庭園美術館、東京都江戸東京博物館、江戸東京たてももの園、
東京都写真美術館、東京都現代美術館、東京都美術館

1. コロナ禍／自粛期間における博物館等の現状・取組

(1) 閉館状況、再開後の来館状況

- ・ 休館期間・・・2月29日～5月31日
- ・ 再開後・・・6月1日～三密防止、検温、東京版新型コロナ見守りサービス
来館者の状況

(2) 閉館中の取組・工夫の実例

○事業面

- ・ オンライン・プログラム
→「おうちでカルチャー」（ステイホーム週間）
「青コレ！」（青いコレクションで感謝を伝える）

○運営面

- ・ 職員の自宅勤務（事業系、管理系）
- ・ 委託事業者（警備、清掃、レストラン、ショップ等）

(3) 損失被害状況

- ・ 収入減、維持管理費等の不足
→ 指定管理料の設定（利用料金制）

(4) 各自治体・団体・館における感染症対策

- ・ 業界別のガイドライン作成（日博協）

(5) 諸外国等の動向

- ・ 新型コロナへ対応の記録化（アーカイブ化）

2. ポストコロナ／ウィズコロナの時代における博物館とは

(1) 前提の変化

- ・来館者・・・入場制限、予約制、団体入場者の減少
- ・事業・・・教育プログラムの見直し（オンラインの利用）

(2) 事業の見直し

- ・マスコミと共催する大型展覧会（特に海外展）
- ・コレクションへの着目
- ・オンライン・プログラムの充実

(3) 収益構造の強化

- ・入場制限による収入減
→ オンライン・コンテンツの課金、入場料の値上げ圧力